

■ご挨拶

副代表理事就任のご挨拶

日本風力発電協会 副代表理事 **高本 学**
㈱日立製作所 電力システム社 電機システム事業部長



はじめに

この度、日本風力発電協会（JWPA）の副代表理事を務めさせていただくこととなりました。日立製作所の高本でございます。

当社の風力事業部門は、2012年7月に富士重工（株）の風力事業部門と事業統合し、新たな一歩を踏み出すこととなりました。風車メーカーとしては何分後発のメーカーではありますが、生産している風車型式としては世界市場でも珍しいダウンウィンド型を有しており、風車メーカーとしての技術的発展はもちろんのこと、日本の風力業界の発展に貢献すべく微力ではありますが頑張っており、ご指導・ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

固定買取制度と JWPA の責任

昨年、固定買取制度が施行され、風力をはじめとする再生可能エネルギーの導入促進が見込まれるわけですが、国民の間には騒音、環境破壊、風資源による利益が地方に還元されない等の懸念がありこれらを如何に払拭し、地元へ風の資源による利益を還元し、ご理解を得ながら進めていくかが重要となります。

事業者ばかりではなく、風車メーカー、工事業者等の全ての関係者にも十分な配慮が要求され、責任のある事業の進め方が必要であります。良い事ばかりではなく、問題点も説明し、それらを地元にご理解いただき、如何に地元へ風の資源を還元するかを考えながら進めることが大切だと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

更に JWPA としては、JWPA に加入していない事業者、企業も含めて風力を如何に国民のご理解を得ながら拡大するかという大きな課題を解決しながら進める必要があります。

また、立地規制を主とする、様々な規制緩和の推進、系統連系能力の拡大等、JWPA としてはこれからやるべきことが山積みで、責任、負担も重くなると考えております。

皆様のご協力を得ながら、一緒になって風力の拡大に努めたいと思いますので、積極的な

協会活動への参加とご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

洋上市場と風力事業の更なる技術発展

国土に限りのある日本国内の風車設置拠点に関しましては、陸上での設置に制限が出てきますが、四方を海洋に囲まれた優位性を発揮した洋上での風力発電に期待が集まっています。海岸線から近い場所での着床式洋上はすでに実用運転に入っていますが、更により深い場所での着床式の実用化検討や浮体式での実証試験が始まっています。

洋上風力では、浮体構造・据付工事・保守アクセス・海底ケーブルなど多方面にわたる技術検討が必要になってきますが、漁業との共存は避けて通れぬ大きな課題と認識しております。

先日、福島沖洋上風力の実証研究設備の安全祈願祭が福島県小名浜港にて開催されました。当日は、福島県はじめ地元漁連関係者の方々にもご出席いただき、ご挨拶を伺いました。そのご挨拶の中でも、地元漁業を守る風車設備として期待しているとお言葉を頂き、風力に携わるものとして大変感激し、また身にしみたお話でありました。JWPA としましても、技術的な発展はもとより、地元関係者のご理解を得ながら国内再生可能エネルギーを進化させていく議論を活発化させ、幅広い議論を進めていきたい関係者のご協力をお願い致します。

また、電力固定買取価格の算定に関しまして、洋上風力の設置工事は陸上と比較しますと、自然環境の変化による据付工事期間の長期化など工事費用を増大させる要因が数多く存在致します。状況により、工船用SEP船の建造や安全面に配慮した新工法の適用など、関係事業者の方々とも慎重に検討を重ねて、工事費用を算出するなど JWPA としての存在価値を高める努力が必要となってきます。永田代表理事をはじめとする関係各位のご指導・ご協力を頂きながら、積極的に活動を進めて参りますので、ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。